

活動ノート



12月10日（土）

アカマツ林作業、成木調査

12:40~15:30

◆参加者：松雪、国広、橋本、静間、川上、鎌田、林、中嶋、岩尾 計9名



◆内容：今日はいんえー会後の半日作業。作業は、繁茂が目立つC・E・F地区を中心としたシダ刈り、萌芽枝刈り及びA地区で頑張っているキキョウ群落予備軍を守るための囲い作成です。今日は参加者数がやや少なく、また別働班としてアカマツ成木調査が併行して行われましたので、7名の参加者がアカマツ林全域に分散し、シダや萌芽枝が繁茂したエリアで作業を行いました。特に、今年草刈り等が行われていなかったC地区中央部及びF地区ヤード周辺は集中的にシダ・萌芽枝を刈りました。実質的な作業は1時間半程度でしたが、急斜面での作業が多かったにもかかわらず予定範囲の下草刈りはほぼ終了し、見違えるほどきれいな斜面になりました。その結果、これまであまり確認されていなかったのび広葉樹除伐の効果が本当にあったのだろうか、世話役として危惧していたF地区ヤード周辺及びC地区上部斜面で、多くの

アカマツの実生を見つけることができました。本当にホッとしました。なお、この下刈り作業は9月のうんえー会後にも行っていますが、今回作業後の実感としては、その時に手を付けられなかった箇所の繁茂がやはり著しかったなということです。特にシダは夏頃に刈らないと、この時期の作業がより大変になるように思われました。また、A地区の斜面中部での生育範囲が広がりつつあるキキョウ群落予備軍は、プラスチック杭とロープで目立つ形で立派に囲うことができました。今後、キキョウだけではなく、シュランやイチヤクソウなど貴重と思われる植物に関しては、落ち葉掻きや下草刈りなどの際に誤って切ってしまうよう、口頭での注意だけでなく、明確な現地マーキング等を行っていきたいと思います。

【ふりかえりより】

・威勢のいい萌芽枝を除去できてスッキリしました。（静間）

12月18日（日）

納会、カブトムシの森作業、植生調査

9:30~15:30



◆参加者：川上、篠原、静間、鎌田、井上、新地、林、国広（信、

友）、織田、新牛込（誠、寛、清、雅）、松雪、吉田、毛利、村山、新川、吉永、森山、岩尾、富永、妹尾 計24名

◆内容：今日は、納会と生長調査カブ森整備に分かれての活動です。納会班5名はキャンプ場で別れて、午前中かけて火熾し、ササ茶づくり、BBQと焼きそばの食材準備、豚汁（さつま芋、里芋の2種）づくりをしました。食材準備では大量の野菜切りに奮闘しました。生長調査班4名はクヌギ生長調査に挑戦。整備作業班は湿地周辺、休憩小屋北側、休憩小屋西〜飼育小屋の3カ所に分れて下草刈りを行ないました。萌芽枝にはクヌギ、エノキ、コシアブラといった大事な落葉広葉樹のものが交じっているの、今回分り易いように常緑広葉樹のみを切るようにしました。今年は夏の草刈りが雨で流れたために、下草が繁茂し放題となっていたので、やっとスッキリさせることが出来ました。湿地周辺からB地区の斜面では軽く除伐も行いました。最後にA,B地区の散策路の落葉を除去して歩きやすくしました。キャンプ場には12時過ぎに到着、まずは豚汁から。並行して焼きそば作りも始まりました。焼き芋、焼きじゃがいも仕込んでいたので、後半には上手く焼きあがっていました。デザートに串に刺した焼きマッシュルームとみかんを食べて納会終了。全員で後片付けをしてセンターに戻り、道

具整備、振り返りをして解散しました。

【ふりかえりより】

・カブ森は冬になると落葉して日当たりが良く、春の草花が楽しみな感じでした。(新牛込)

1月15日(日)

アカマツ林作業

9:30~15:30

◆参加者: 松雪、国広、静間、林、鎌田、橋本、白石 計7名



◆内容: 新年最初の定例活動でしたが、朝の油山は気温0度という厳しい寒さ。駐車場横の噴水には氷のオブジェができ、まさに厳冬期といった感じでした。ただ、気温は低くても10時頃からはお日さまが降りそそぎ、風が当たらないところではまさに冬晴れといった感じで、伐倒作業にはピッタリといった1日でした。今日の参加者は7名と、寒かったこともあってやや少なかったですが、いつものように9時半頃からミーティングや道具準備を行い、準備運動の後10時20分頃から作業を開始しました。今日の作業は、C地区西側及び斜面下部(1班)、及びD地区東端部~C地区中央部(2班)での広葉樹伐倒です。1班はまず直径30cm弱のタブノキの伐倒から取り掛かり、昼前には計画通りの伐倒と材処理を終えました。午後は、C地区ヤード上方の広葉樹の伐倒準備のため、ヤードより下の10~20cm程度のアラカシやクロガ

ネモチなどを4本除伐しました。2班は、まずC・D地区境界付近の直径40cm近くの大きなタブノキの伐倒に取り掛かりましたが、何分にも大きな木だったため伐り倒すのに昼近くまでかかりました。それでも少人数での奮闘努力の甲斐あって、基本通りのきれいな伐倒ができました。その後枝処理等を昼休みを挟んで行い、続きの作業として直径20cm前後のユズリハやタブノキ、15cm程度のコナラなどを除伐しました。ただ、ユズリハやタブノキの伐倒で、ツルを切りすぎたために伐倒方向が狂い、1本は掛かり木に、またもう1本は追い口側方向に倒れる結果となりました。追い口方面に倒れることは、いわゆる「ヒヤリハット」とも呼べる事例ですので今回の大きな反省材料と言えます。最終的には、少人数の割に多くの木の除伐をけがや事故等も無く無事に終わることができ、アカマツ林としての姿がかなりはっきり見えてきました。今後もC地区からD地区にかけての伐倒が続きます。ただ、このエリアは急斜面で、掛かり木になりやすい木がかなりあります。伐倒方向が大きく狂うと事故につながりかねません。したがって、補助具等を使ってきちんと受け口・追い口・ツルを作る、ロープやくさびを適切に使うなどの基本手順に忠実な作業を行うことが一層重要になると思われます。また、木を切ることに集中してしまいがちになる作業者の他に、その安全性や作業手順の妥当性をチェックするための人員を組み合わせた、「複数人体制」(なるべくは熟練者と経験の浅い人との組み合わせ)で伐倒作業を行

うことをこれからも基本にしたいと思っています。

【ふりかえりより】

・つるがらみは細いものでも支障になることを実感しました。(国広)

1月22日(日)

葉っぱの切り絵とウッドバーニング(雨天バージョン)

9:30~15:30

◆参加者: 鎌田、橋本、林、国広、中嶋 計5名



◆内容: 今日はカブ森作業の予定でしたが、開始時刻になってようやく5名参加。小雪もちらつき雨天バージョンに変更。活動予定と今日作成する作品の説明を聞いて、カブ森へ散策に向かいました。途中、アカガエルの卵塊を観察し、草木の事、虫の事など話しながら散策。カブ森で材料となるきれいな葉っぱを拾ってセンターに戻りました。

葉っぱの切り絵は、①図鑑や絵本を見ながらデザインを決める。②葉っぱの裏にマジックやボールペンで下絵を書く。③下絵に沿って、葉脈を活かしながら切り落とさないように絵に繋がりを持たせてカッターで切る。④完成したらビニル袋に入れる。(袋に入れ、押し花にして完成させる)お昼を食べて午後はウッドバーニングをしました。材料は羽目板の端材、道具はバーニングペン、ボールペンです。①図鑑や絵本の中から好きなデザインを選び、コピーを

用意。②板にコピーをあてがいセロテープで片方だけ貼る。③コピー紙の上からボールペンで強めに図柄を板に写す。④バーニングペンで色の薄い部分から焦がして、徐々に色の濃い部分を仕上げていく。

【ふりかえりより】

・ウッドバーニングと言う電気ゴテのような道具で絵を描く作業ではすっかりはまってしまいました。(橋本)

2月5日(日)

活動説明会(シイタケ駒打ち)

10:00~15:00

◆参加者：静間、鎌田、林、迫、川上、中嶋、松雪、小川、久保川 計9名、一般参加：28名、体験参加：5名



◆内容：「森で遊ぶ」をテーマに森林利用の楽しさを伝える行事として開催しました。ネイチャーゲームでアイスブレイクした後、全員でシイタケ狩りを体験。袋いっぱい収穫を楽しみました。カブ森に移動して世話役からフィールドの説明をしてもらったあと、自然観察班とノコギリ体験班に分かれて午前中を過ごしました。自然観察ではジョウビタキ、クヌギの樹液跡(ボクトウガの説明)、林床の野草、ひこばえ、ツチアケビなどを観察しました。ノコギリ体験では、様々な樹種の丸太からプレートを切り出す作業を行いました。クスノキの香りが印象に残っていたようです。昼食

は交歓広場で。ぼちぼち食べ終わったところ、迫さんから火の起こし方をレクチャーしてもらい、たき火体験を行いました。シイタケ駒打ちでは、今回50本の櫓木を準備しました。4班で手分けしてコマ打ちするところでしたが、ドリル1台が故障し、もう一台はパワー不足。結局2台のドリルでがんばりましたが、なんとか最後の1本まで打ち終わりました。途中、収穫したシイタケを焼いて食べました。体験参加の方からは、森林利用の大切さがわかったとの声もいただき、盛会に終わりました。

一方、アカマツ幼木調査は精鋭2名で取り組みました。地かき処理の有無で実生幼木の発芽、生育、定着状況等にどのような違いがみられるかを調べるため、アカマツ林B地区内に設置している2m四方の2つの調査区画(地かき処理を行うA区画と行わないB区画)で、アカマツ実生幼木の高さ、生育の状態、生えている場所を確認し、調査票に記録する作業を行いました。地かき処理を行うA区画で37本の幼木を確認できたのに対して、行わないB区画では7本しか確認できず、地かきの有無による違いが感じられました。また、調査区画での作業終了後、この調査とは別に、A~F各地区の幼木の中で生育状況を調べる個体の選定作業を行いました。この調査については、後日行う予定です。調査結果の詳細は今後「森ものがたり」などで報告したいと思います。

【ふりかえりより】

・雨でしたが参加者も多く楽しい活動説明会ができて良かったです。(鎌田)

2月26日(日)

カブトムシの森作業

9:30~16:00

◆参加者：静間、鎌田、林、井上、川上、松雪、篠原、中嶋、長澤、織田、新地、森山、岩尾、妹尾、(体験参加)古寺(和恵・凧希)、千葉 計17名



◆内容：今日は、常緑樹伐採による林床への採光改善を目的にカブ森B地区で大径木の除伐に取り組みました。また、体験参加、新人の方の為に、ヤブツバキ伐採班を編成しました。大径木伐採は2班に分れ、それぞれアラカシ、タブノキなどの大径木2本と、それらに関連した除伐をしました。今回は基本手順の遵守を徹底した結果、所期の伐倒方向に倒すことができていました。伐倒後の処理はほぼ完了することができましたが、伐り戻しと大径木材の玉切りは特別活動に持ち越しました。気になっていたB地区常緑樹の除伐に手をつけることが出来て一安心です。これでA地区からC地区まで見通せるようになりました。今後もますます難しい伐倒になるので、基本に立ち返った正確な作業をしていきたいと思います。尚、午後アカマツ幼木調査も併せて実施しました。

【ふりかえりより】

・人生で初めての伐倒を経験しました。テレビ等を見ていると簡単そうに見えるが、実際に自分で伐倒すると、とても重く、技術が必要で驚きました。(妹尾)